

Jazz Interview vol.33

オスカー・ピーターソンも絶賛したカナダの No.1
女性ベーシスト、シンガー&コンポーザー！

ブランドィ D 【Brandi Disterheft】

2007年の1stリーダー作『デビュー』で、カナダのグラミー賞といわれる『ジュノ・アワード』の《ベスト・トランジショナル・ジャズ・アルバム》を受賞するなど、カナダ・バンクーバー出身で、現在NYを拠点に活動中の注目の女性ウッドベース奏者＝ブランドィD。
あのオスカー・ピーターソンが「彼女には、私のベーシスト<レイ・ブラウン>と同じリズムカルな鼓動がある。彼女こそく本物>だ」というメッセージを残しているが、華奢で美しい容姿を持ちながら、卓越したテクニックと男勝りにウッドベースを弾きこなす姿は素直にカッコいい。そして、歌うのはベースだけでなく、そのヴォーカルも見事。

本誌「Vol.32」の表紙も飾ったブランドィ。昨今、世界中で素晴らしい女性ウッドベース奏者が増えてきているが、ブランドィはお世辞抜きに一押ししの逸材。記念すべき日本デビュー・アルバム『グラティチュード』発売を直前に控えたブランドィに話を聞いた。【2013年4月 取材・文：加瀬正之／取材協力：ユニバーサル ミュージック 花村路津子】

★今回、本誌編集長が『グラティチュード』のライナーノーツを書かせて頂きました。プロフィール、曲解説等の他、ブランドィのベースの師でもあるロン・カーター氏にも特別にコメントを頂いています。機会があれば、そちらもご覧頂けると幸いです。



♪ 本誌前号「Vol.32」の表紙に登場して頂き、有難うございました！
表紙になることができてとても光栄よ！ ずっと表紙を飾ることを夢見ていたの。だから、これで長年の夢が叶ったわ！

♪ 日本では“ブランドィD”としてアルバム・デビューとなりますが、“ブランドィD”というアーティスト名についてどう思われますか？

ずっと長くで覚えづらい「ディスターヘフト」という苗字を変えることができたかと思っていたの。でも、今は好きよ。「ヘフト」には英語で「重さ」や「引き（持ち）上げる」という意味があって、正にスイングーなベース・ラインに通じることだから。

♪ 「感謝」を意味するタイトルが付けられた日本デビュー・アルバム『グラティチュード』について聞かせて下さい。

このアルバムは、突然の病の後にはこの世を去った私の従兄弟に捧げた作品で、同名のタイトル曲も親愛なる友であり、兄弟のような存在でもあった彼の人生を祝って書き上げたオリジナル曲なの。誇りや喜び、深い悲しみといった感情を徐々に発展させて、ムードを変えながら、古き良きニューオリンズ・サウンドで表現してみたのよ。参加メンバーのリニー・ロスネス (p) は、幼い頃から彼女のアルバムを愛聴していて、長年共演を望んでいたわ。グレゴリー・ハッチソン (ds) は、レコードやライブで彼の演奏を何度も聴いていて、私の憧れのレイ・ブラウンと長年共演していたのよ。この作品では、私が尊敬するチャールズ・ミンガスがデューク・エリントンの音楽に魅せられたように、エリントンのロマンチックで喜びに溢れた絶妙なオーケストラ・サウンドを体現したくて、サクソとトランペット、フルートの導入を試みたの。ウィンセント・ハーディング (as) は、あの屈強なサウンドをどうしても取り入れたかったの。それと、共に私の長年の友人でもあるザ・リンカーン・センター・ジャズ・オーケストラのメンバーだったショーン・ジョーンズ (tp) とケニー・パロン等とレコーディング経験もあるアン・ドラモンド (f) に声をかけたのよ。

♪ あなたの母親はジャズ・ピアニストだと聞いていますが、両親共にミュージシャンなのですか？

母はハモンド・オルガン奏者兼ピアニストで、父は25年間カナダにあるヤマハの営業の代表を務めていたのよ。父は大学時代にトランペットを学んで、スタン・ケントンとの共演歴もあったの。私は4歳の時にクラシック・ピアノを学び始めたんだけど、幼少期にオスカー・ピーターソンやビル・エヴァンス、カウント・ベイシー等の音楽に触れる機会を与えてくれた両親には感謝しているわ。

♪ ウッドベースを弾ききっかけについて聞かせ下さい。

ウッドベースを弾いたのは父のアイデアだったの。小さな少女が巨大な楽器を弾くのはコミカルでユーモアがあるだろうと考えたんだと思うわ。ウッドベースを弾き始めたのは13歳の時で、すぐにそのチャーミングな男性のように雄弁で、爽かで、美しいトーンを持つベースに心を奪われたわ。エレキベースを弾き始めたのは14歳の時。

♪ 歌を歌い始めたのはいつですか？

私は人生を通してずっと歌い続けているわ。私の叔母アンジー・ジャリーはロサンゼルスで歌手活動をしているんだけど、彼女はセルジオ・メンデスやクレア・フィッシャーのツアーやレコーディングに参加したこともあるのよ。私は彼女のレコードと一緒に歌いながら育ったようなもので、彼女の歌声を敬愛している。華麗で、澄み渡って、鼻にかかった声質はナンシー・ウィルソンの歌声に似ているわ。

♪ ニューヨークに進出したのはいつですか？

ニューヨークに移ったのは2009年。それ以来、私がリストに挙げているゴールや夢を実現できているのよ。例えば、ベニー・グリーンとレコーディングすることをずっと願っていたんだけど、アン・ドラモンドの新しいプロジェクトのための作品でちょうど彼とレコーディングしたところなの。そのアルバム『Revolving』は今年中にリリースされるはずよ。ニューヨークの音楽の演奏力のレベルはとても高くて、みんな絶えず成長して、ベストを尽くすために努力しているわ。そんなニューヨークが大好きよ。

♪ これまでに日本で演奏したことがあるそうですね。

ロン・コープのワールド・ミュージック・バンドで演奏したわ。東京から新幹線に乗って本州を横断して、熊本城でコンサートをしたのよ。それに強風の中、1時間かけて山道を抜けて、私の故郷バンクーバーを思い出させてくれるような立派に育った木々が生い茂る岡山のアーツ&クラフトビレッジまでドライブしたこともあるわ。日本は私が今まで訪れた国の中で一番魅力的な国のひとつよ。私の父はヤマハで働いて以来ずっと、日本の文化や日本製品の質の高さに最大の敬意を払っていたわ。私たちの家の裏庭にはミニチュア版の日本庭園もあるのよ。それに、私は幼い頃「ヤマハがベスト！」ってみんなに言いながら育ったの（笑）！ ヤマハの靴下にテニス・ラケット、タオル、エプロンも持っていたわ（笑）。私の父は小さなヤマハのヨットまで持っていたくらいで、「このヤマハのヨットは世界中で最高の小型ヨットだ」と言っていたわ。そんな訳で、私が日本に到着した時には、既に私の故郷にいるように感じたの。

♪ あなたが所有しているベースについて教えてください。

私が持っているウッドベースは、1920年代に製作されたドイツのフレッツィナー社のもので、美しく格調高くダークな響きがある。あと、デヴィッド・ゲージのチェコ・イーズ・ベース、ヤマハのサイレント・ベース、ヤマハのエレクトリック・ベース RBX とヴィンテージのフレットレスでアメリカ製の P-Bass も持っているわ。

♪ ベースを始めた頃、お気に入りだったベーシストは誰ですか？

レイ・ブラウンよ。両親のリビングルームで何年も彼の演奏を聴いていたわ。それからすぐに彼の演奏をコピーし始めたの。ウォーキング・ラインやソロに調和的なセンスがあったわ。それと、母がスコット・ラファロがベースを弾いていたビル・エヴァンスのトリオのアルバムも全部持っていたんだけど、スコットは私にとって衝撃的だった！ 特に私の魂を奪うような 3/4 拍子のベースラインは個性的で革新的で、その点で彼は別格だったわ。あと、家にあったチャーリー・パーカーのレコードでベースを弾いていたトミー・ポッターと一緒にウォーキングしていたわ。バードを聴くと踊らずにいられなくて、いつも演奏に合わせて一緒にベースを弾いてしまうの。

♪ 強い影響を受けたジャズ・ベーシストを 3 人挙げてもらえますか？

ロン・カーター：ひとりの人間として、彼には気品があって、堂々として、威厳もあって、それは彼のベースのサウンドにも通じるわ。彼は自分の知識を次の世代に引き継ぐという愛他的な責務を遂行していると思うの。私がこれまでに費やしてきたトレーニング以上の深く細部に渡る部分まで注意を促すように要求する凄さもあるのよ。

ラリー・ゲイルス：セロニアス・モンクのレコードで聴ける彼の雄大なウォーキング・ベースによるソロが大好きなの。

チャールス・ミンガス：彼の炎のような情熱を感じながら、彼のようバンド・リーダー、作曲家になれるように邁進しているわ。

♪ オスカー・ピーターソンが「彼女こそ本物」とあなたに対するコメントを残していますが、どのような気持ちですか？

私は彼の音楽を聴いて育ったのよ。彼の生涯の功績を称えるパーティーで演奏したんだけど、その時の受賞スピーチで「若い女性にベースを弾いているのを見て驚いた。彼女には、私のベーススト・レイ・ブラウンと同じリズムカナルな鼓動がある。彼女こそ本物」と言ってくれたの。その瞬間、本当に鳥肌が立ったわ。まるで夢の中にいるようで、なぜあのオスカー・ピーターソンが大勢の人々の前で私のことについて話したのか分からなかったし、ひどくかきこまってしまうけれど、今では彼の言葉が音楽を創造し続けるための素晴らしい閃きになっているわ。

♪ ベースを弾く上で一番大切なことは何ですか？

メトロノームを使って練習すること。あと、タイム感とレパートリー強化のためにレコードと一緒に演奏すること。毎日スタンダード・ナンバーを覚えること。あなた自身とあなたの音楽をサポートしてくれる友人を見つけて、その友人たちに囲まれていること。あなたの街にいる古い世代のジャズ・ミュージシャン達と友達になること。そして、夢は大きく、夢を追い続けることわ。

♪ あなたは海外の一部メディアで「カナダのエスペランサ」と呼ばれていますが、エスペランサ・スポルディングについてどう思いますか？

最初にエスペランサを聴いたのは数年前だけど、私は 15 年間ベースを弾いていて、それ以前はみんなにいつも「ジョディ・プロズニックを聴いたことはある？」って尋ねられていたわ。ジョディ・プロズニックは私より少し年上のバンクーバー出身の才能ある女性ベーシストなの。エスペランサと私は以前同じステージに立ったり、ニューヨークでよく出くわしていたわ。彼女は才能ある強力な存在だし、溢れる才能と一連の活躍でたくさんの新たなジャズ・ファンを獲得して、ジャズ・シーンに多大な貢献を果たしてくれているし、凄くリスペクトしているわ。

♪ 強い影響を受けたヴォーカリストを 3 人挙げてもらえますか？

ダイナ・ワシントン、ヘレン・ヒュームズ、そして、仲の良い友人で私と同じ学校に通ったライラ・ビアリね。彼女はピアノの腕前も驚くほどで、自身のバンドを率いていて、作曲、アレンジの面でも天才的なの。スティンクやクリス・ポットィのバックでも歌ったのよ。



♪ 作曲はどのようにしているのですか？

私が探し求めているびったりのハーモニーを形作ることができるから、いつもピアノで作曲しているわ。眠れない時やもった曲を書かなければと感じて寝付けない時はいつも曲を書いているの。普段は 1 週間に 3 ~ 4 日、深夜 1 時から 4 時まで作曲しているわ。みんなが寝静まっている時に活動するのが大好きなの。練習用のミュート・ペダルが付いている私の愛用の真っ白のヤマハのアップライト・ピアノの存在が有難くて、感謝しているわ！

♪ 日本人のミュージシャンとの共演歴や好きな日本の音楽について聞かせて下さい。

日本人のミュージシャンとはニューヨークで度々一緒に演奏しているし、私の仲の良い友人の何人かは日本人なのよ。その中の友人のひとり、信実美穂 (Miho Nobuzane) はずっとブラジリアン・ジャズを演奏していて、私たちは一緒にブラジル出身のミュージシャン達と演奏することがあるわ。あと、私は武満徹の大ファンで、ニューヨークにいるピアニストの友人クラウス・ミュラーが彼の音楽をチェックするように言ってくれて、スコアをくれたの。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

ヨットで航海するのが大好きなの。いつか日本の異なる島々をヨットで島巡りに渡ってみたいわ。

♪ あなたの夢、目標は何ですか？

ヨットの話のついでになるけれど、バンクーバーからハワイまでヨットで航海することをずっと目標にしているの。時々夢見るのは、60 フィートの帆船で生活しながら、いろいろな場所や国にツアーに行くこと。あと、『グラティチュード』は言葉や歌、シンプルな行動で周りの人々に感謝、恩返しするという意味で、ジャズ以外の音楽のリスナー達にもジャズを大好きになってもらうように邁進すること。

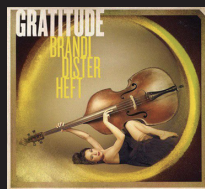
♪ 最後に『The Walker's』読者にメッセージをお願いします！

この記事を読んでくれてありがとう。日本で新しい友達、ジャズを愛する新しい友達にも出会えたら嬉しいし、私の音楽を喜んで共有したいと思っているわ。

【ブランドィ D Official Web Site】

<http://www.brandidisterheft.com/>

ブランドィ D の日本デビュー・アルバム！



グラティチュード ブランドィ D

ユニバーサル ミュージック：TOCJ-68100

¥2,300 (tax in)

2013 年 5 月 22 日発売

【* P10 にレビュー掲載！】